

令和8年 第2回 肝付町議会定例会（中日：一般質問）

順位	質問者	答弁者	用 件 （ 要 旨 ）
1	木村 實馬	町 長	<p>1. 自主財源向上策について</p> <p>(1) 本町の自主財源の向上に資するため、行政、きもつき未来商社そらまち、議会、商工会（民間企業等）と連携した官民共創プロジェクトを構築し、地域資源や民間活力等を活かす政策の推進について、町長の考えを問う。</p>
2	進藤 鈴子	町 長	<p>1. 指定ごみ袋の見直しについて</p> <p>(1) 中東情勢悪化によるナフサが調達難でごみ袋の安定供給が難しくなると言われる中、ごみ袋の値上げも懸念される。家計負担を軽減させるためにも町の指定ごみ袋の見直しについて町長の考えを問う。</p> <p>2. 家庭の剪定枝葉の収集について</p> <p>(1) 廃棄物の処理及び清掃に関する法律第6条に基づく一般廃棄物の大きな枝葉、例えば直径15cm、長さ100cm以内のものを束ねておくと回収してくれる施策に取り組んで欲しい。町長の考えを問う。</p> <p>3. 福祉タクシーについて</p> <p>(1) 「広報きもつき」4月号に記載されてある福祉タクシーの助成制度について、温泉割引券に併用されてある。単独で助成する考えはないか問う。</p> <p>(2) 特別に重度障がい者あるいは障害手帳保有者への福祉タクシー券の助成は考えられないか問う。</p> <p>(3) AIおでかけタクシーに新規参入できないか問う。</p> <p>(4) 福祉タクシーの利用者は高齢者、障がい者の方の利用が多い。周知率を高める考えはないか問う。</p>
3	清水 幸祐	町 長	<p>1. わが町の現状認識と、地域の状況を好転させるための町長の政治姿勢について</p> <p>町で一番の課題である人口の減少や、深刻な人手不足により、私たちの暮らしを支える仕組みが限界に近づいています。今はもう「今の状態をどう長引かせるか」「どううまく縮小していくか」ではなく、「どうやってこの町を立て直し、未来へ残していくのか」という根本的な考え方の転換が求められています。本気で町を維持・再生し、状況を良くしていくための町長の覚悟と、基本的な考え方について以下の3点をお聞きします。</p> <p>(1) 人口が減る中での現状の捉え方と、町を良くするために町が果たすべきことについて</p>

今の人口減少によって地域の力が落ちていることに対し、町長はどの程度の危機感を持っていますか。今の状況は「これまでの対策の延長で対応できる段階」と考えているか、それとも「町を良くするために、町が果たすべき責任や動き方そのものを根本から見直す必要がある段階」に入っていると考えているか伺います。

(2) 人手不足に対し、町が直接支える仕組みへの転換について

あらゆる分野で人が足りないという問題に対し、利益を第一とする民間の力や、民間との協力だけでは、もはや町を維持することは限界に来ているのではないのでしょうか。「民間をうしろから支援する」ことから一歩踏み込み、町が直接雇用を作ったり事業に関わったりすることで、町自ら進んで働き手や安定した仕事の確保に動き、町を良くしていく確実な土台を作る必要性について、町長の考えを伺います。

(3) 国の経済政策に対する考え方と、町から国への強い働きかけについて

地方でお金が回らなくなり、「生活に必要なものやサービスを生み出す力」そのものが失われつつある今、「国にはお金がない」という思い込みから、地方が自ら小さくなる道を選ぶべきではありません。町の土台を守り、状況を良くしていくため、これまで通りの要望活動にとどまらず、正しいお金の考え方（貨幣観）をもとに「国はもっと地方へお金を出し、将来のためにお金を使うべきだ」と国へ強く求めていく覚悟が、この町の先頭に立つ町長にあるか伺います。

4 小玉 秀行

選挙管理
委員長

1. 選挙の投票率について

- (1) 今回の町議選の投票率は56.8%で、前回の62.9%から低下した。投票所削減の影響も含め、地区別・投票所別・年代別などの投票状況データの分析結果とそれを元にした今後の投票率アップのための対策案を伺う。
- (2) 広報誌における選挙の案内や立候補予定者説明会が告示日前の1か月前と、タイトなスケジュールであった。2か月前の案内にできないか伺う。
- (3) ポスター掲示板151か所のうち、現在は住民がほとんどいない場所にも設置されている。有権者が見やすい場所への再配置を検討できないか。
- (4) 候補者が政策を伝える手段が乏しい。選挙公報紙の発行、またはホームページでの公開はできないか。

町長

2. 町からの情報発信について

- (1) ホームページの各種情報の日付が「初回登録日」のままになっているケースが多い。新年度が始まるタイミングで、「更新日」を変更する運用を検討できないか。
- (2) 広報誌・防災無線だけでは情報が届きにくい層がある。補完策として、肝付町のLINE公式アカウントの活用促進と、発信内容の拡充を検討できないか。

3. 住みたい田舎ランキング入りについて

「住みたい田舎ランキング」南九州エリアで、肝付町は子育て世代6位、シニア世代で8位にランクインした。

- (1) 評価の分析と更なる向上について
 - ・どのような点が評価されたのか。
 - ・今後さらに満足度を高めるための具体策はあるのか。
- (2) 移住者の受け入れについて
 - ・最近の転出入者の増減とその理由は把握しているか。
 - ・空き家等の住宅の確保はできているのか。
 - ・移住者と地域住民との交流促進のための取り組みは。

4. 観光地のトイレ整備について

- (1) ロケット発射や流鏝馬祭り、銀河マラソンにおいては、町外から多くの観光客や参加者が訪れる。これら訪問者が気持ちよく過ごし、リピーターとなってもらうため、各観光スポットのトイレを、着座式洗浄便座の整備などの取り組みを検討できないか。

5. 指定ごみ袋の供給について

- (1) 国際情勢の影響で原油・ナフサ不足が懸念される。指定ごみ袋の品薄リスクの有無と、供給不足時の対応策について伺う。

6. 図書館の整備について

- (1) 町内の既存の遊休施設を活用し、図書館の開設を検討できないか。
従来の静かな図書館から進化して、静かなゾーンとにぎやかゾーンを分離し、0歳から100歳までが安心して、いろいろな活動ができる図書館の整備について伺う。

5

柳 一夫

町長

1. 中山間地の荒廃の防止について

- (1) 中山間地の荒畑の今後を危惧する。どのように対応していきたいと考えるか。
- (2) 中山間地を持続させていくための方策について問う。
- (3) 中山間事業は、令和6年度に改正があった。大きく変わった点は何か。
- (4) 中山間事業と水土里サークル事業を併用で実施している地域が増加していると聞く。事務作業が煩雑であるが、町で行ってもらえないか伺う。
- (5) 中山間事業の大きく変わった点で農業振興地域に含まれていない畑が多く存在する。それらも事業に含まれるのか。
- (6) 榊（サカキ）、檜（シキミ）、クヌ木、椿等、植栽されているが、中山間事業に含まれる作物であるか。また、交付金の試算はできるか。

2. 農業振興センターのハウスの状況について

			<p>(1) 研修生、雇用実習生の現状について問う。</p> <p>(2) 研修ハウスの利用状況について問う。</p> <p>(3) 研修ハウス周りの管理は、後作の防草、防虫、排水対策が必要であり、徹底する必要があると思うが、どのように考えているか。</p>
6	益山 二郎	教育長	<p>1. 学校問題について</p> <p>(1) 教科書について</p> <p>教科書に紙ベースとデジタルのものがあるが、現在の運用や利用状況はどの程度の比率割合なのか。学力向上の面から見たとき、その効果は現れているのか。全国平均の学力が示され、本県の平均は劣る教科があると報道されているが、本町の現状はどのような数値になっているのか。</p> <p>(2) 不登校生について</p> <p>不登校数の増減など、現状はどうなっているのか。またこのような生徒に対してのケアは十分なのか。また、憩いの家内にある、「不登校支援室 きらっと」の運用状況はどうなっているのか。</p> <p>(3) 部活動の地域移行について</p> <p>部活動の地域展開が文部科学省やスポーツ庁主導で進められている。実現、実行に向け協議されていると聞くが、現状はどうなっているのか。</p> <p>(4) 波野小・中学校の高山小・中学校への統合について</p> <p>波野小学校と波野中学校の保護者から、高山小学校と高山中学校への統合要望書が出されているが、これに関する進捗状況や統合に向けての目途はどうなっているのか。</p>